

一般演題2-5

心臓カテーテル治療に伴う放射線性皮膚障害にHBOが著効した1例

大江与喜子 松田健太郎 名川博之

医療法人財団樹徳会 上ヶ原病院

【はじめに】

悪性腫瘍に対する放射線治療の晩期障害として、骨髄炎、腸粘膜・膀胱粘膜の障害や出血、皮膚潰瘍等がある。これらの放射線性晩期障害に対して高気圧酸素療法（HBO）が有効であることは確立されつつあり、当院でも多くの有効症例を経験している。今回、心臓カテーテル治療が原因で被爆、発症した難治性皮膚潰瘍に対してHBOが著効した1例を経験したので報告する。

【症例】

70歳男性、心臓カテーテル治療を約10年前に実施。その際、背部に皮膚潰瘍を形成した。皮膚科にて治療を受けるが局所の感染を繰り返し、デブリードマン等外科的治療を施行されるが治癒することなく経過していた。心臓カテーテル治療中に脳梗塞を発症、左片麻痺が残り、10年来続く皮膚潰瘍とその痛みによりうつ傾向となっていた。本年7月より、第一種装置酸素加圧2.0ATA保圧60分にてHBOを開始。疼痛は比較的早期に改善、仰臥位で熟睡ができるようになった。その後、浸出液や発赤は軽減していった。途中、腹膜ヘルニア手術のため約1ヶ月の休止期間を挟み、9月より再開、創部の経過は良好である。

【考察】

心臓カテーテル治療による被爆は放射線治療による被爆と比べ線量が少なく、損傷部位も

浅かったことが早期改善に繋がった。また、酸素毒性による抗菌作用にて創部の感染がコントロールできたと考える。

【結語】

心臓カテーテル治療が原因となるケースは少ないが、本症例のように、10年間にもおよぶ難治例が、十数回のHBOで治癒に向ったことは患者のQOLを著しく改善した。これは紛れもなくHBOの効果であり、HBOの更なる啓蒙が必要であると感じた症例であった。

